

空を活かし空を楽しむ宣言

我々は、それぞれ、郷土の住民とともに、「あおぞら」と「星空」の観察を行い、自らの目で郷土に広がる大気の清澄さを確認した。

我々の街の「あおぞら」と「星空」は、生まれ育った郷土で生活する誇りを我々に改めて認識させるとともに、希望と活力、夢と楽しみを与えてくれた。そして、何よりも「あおぞら」と「星空」は、清らかな大気が郷土にとってかけがえのない貴重な財産であることを教えてくれた。

豊かな環境に恵まれ、それを保持するよう努めてきた地域と、一度は汚染された環境を改善し再び「あおぞら」と「星空」を取り戻した地域と、その道程（みちのり）は異なるものの、「星空の街」「あおぞらの街」に選ばれた我々は、このことをひとしく心から誇りとするものである。

地球を包む大気は、太古からの生物の活動により育まれつつ、同時に、生物の進化と繁栄を支えてきた。大気は、水や土壌とともにあらゆる生物の存在にとって必要不可欠なものであり、かつ、生物、とりわけ人間が守るべき共有の有限な資源である。

我々は、この自然の厳粛な哲理に想いを巡らせるとき、大気の利用に当たっては常に関心を払い、謙虚でなければならないと決意した。

本日、ここ北九州市に会した我々は、郷土の住民と一体となって、清澄な大気をもたらす豊かな恵みを地域おこしに活かし、郷土の自然と触れ合い楽しむ新たな手だてを展開し、これを全国、全世界に広げ、こうして大気の恵みをより豊かなものとし、将来の世代へ貴重な財産として引き継いでいくことを宣言する。

昭和63年6月4日

星空の街・あおぞらの街サミット